

報道関係各位

2025年11月28日

株式会社アサヒパック

NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2025 へお米屋さんとの共同出店 令和7年産新米の量り売りと、オリジナル米袋の制作体験を提供！

お米の袋の専門メーカー [株式会社アサヒパック](#)（大阪市住吉区 代表取締役：山澄 正一郎）では、『日本の食文化の素晴らしさを発信すること』『お米の消費拡大に尽力すること』などを自社の企業理念の一つとして定めており、これを「**ごはん食推進活動**」と銘打ち、積極的に取り組んでおります。

今回、本活動の一環として2025年11月8日（土）9日（日）に丸の内で開催された農林水産省が主導する国民運動「ニッポンフードシフト」のリアルイベント「**NIPPON FOOD SHIFT FES. 東京 2025**」へ出店いたしました。一般消費者さま向けの催しへの本格的な参加は、弊社では初となります。当日は千葉県船橋市の米穀販売店である「まきの米店」さまと共同出店という形式で実施し、令和7年産の新米2種類の量り売りとオリジナル米袋の制作体験を提供しました。（NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2025 公式ページは[こちら](#)から）

● オリジナル米袋制作体験



ブースでは量り売りのお米の外装用として無地の紐付きクラフト米袋をご用意。来場者の皆さまには、そこにスタンプやシール、ポスカなどを使用して思い思いのデコレーションを施していただきました。

特に弊社所属のデザイナーが本イベント用に書き下ろしたオリジナルシールには、販売されたお米にちなんで「みかん」と「カモミール」の絵柄を準備。購入されたお米に合わせてそのシールを貼り付けてくださる方、またポスカを使って絵を描いてくださったお子さんや、プレゼントとしてお渡しするためのメッセージを綴ってくださった方もおり、お米だけではなく、そのお米を入れる「パッケージ」にも関心を持っていただく、一つのキッカケを作ることができたと感じています。



オリジナルシールの一例

当日は、制作いただいた米袋を記憶だけではなく、綺麗に記録にも残してもらえるよう「米袋フォトスポット」をご用意しました。一部、許可をいただきました皆さまの作品をアサヒパック公式 note で「東京米袋（パーティ）コレクション」としてご紹介しています。
(アサヒパック公式 note 該当の記事は[こちら](#)から)

● **NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2025** について

- ・ 開催日程：2025年11月8日（土）、9日（日）
- ・ 会場：[丸の内仲通り](#)（主催：農林水産省）

農林水産省が主導する、官民協働で取り組む国民運動「ニッポンフードシフト」。Z世代をメインターゲットに、食と環境を支える農林水産業・農山漁村への国民の理解醸成を図るため、多角的な情報発信に挑んでいます。東京で行われるリアルイベントは今回で5回目。東京の中心である丸の内仲通りから、日本の「食」と「農」が抱える課題や目指す未来について、生産者・事業者・消費者がともに考え、「食」と「農」の魅力に触れ、学ぶ機会を創出する場として開催されています。
(ニッポンフードシフト公式ページは[こちら](#)から)



● **まきの米店**について

千葉県船橋市にお店を構える、笑顔溢れる米穀販売店「まきの米店」さま。代表である牧野基明さんは五ツ星お米マスターの上位資格である「五ツ星お米マスターProf.」を取得。農林水産省の食育推進事業講師としても活躍中で、本イベントには、みかんの皮で作った堆肥「[みかひ](#)」を用いて栽培した千葉県産粒すけと、カモミールのエキスを絞った残渣を土壤に漉き込んで栽培した長野県産コシヒカリという、特色ある2種類のお米をご用意くださいました。



(公式サイトは[こちら](#)から)

● **アサヒパックの「ごはん食推進活動」**について

お米を中心とした食生活は「日本の文化」であるだけでなく、健康的な食生活の大きな要でもあります。また、水田の広がる田園風景は土砂流出の多い日本の国土を守る環境保全の役割も担っています。「お米専用の包装資材供給」という米穀流通の一端を担う私たちアサヒパックでは、日本の食文化が途絶えることの無いよう、その中心である「お米」を次の世代に確実に繋いでいくため、様々な形で取り組みを行っています。未来のためにも、引き続きこの活動を拡大してまいります。（詳しくは[こちら](#)から）



今年4月には Web ページ「Rice or Die」を公開